

世界一をアシスト！ 地元製作所の技術力

昨年の千葉大会で初優勝した室屋さん。そのレース直前まで改良を重ね、見事0.2秒のタイム短縮につながったタイヤカバー（機体車輪のカバー）の木型製作に当たったのは、地元の小さな製作所でした。レースまで日数がなく、依頼に応じる会社が見つからない中、室屋さんが知人から紹介されたのが町庭坂の斎藤木型製作所。社長の斎藤芳紀さんに当時の話を伺うと「とにかく時間がありませんでしたが、なんとか日本開催の大会に間に合わせたいと、社員総出で連日夜中まで頑張りました。室屋さんが初優勝した時は本当に感動しました」と振り返ります。現在もこのタイヤカバー（写真中央）は使用されており、地元製作所の技術力が世界一をアシストしました。



▲室屋さん(中央)と斎藤木型製作所の関係者(斎藤社長は後列左)

福島の地で練習を重ねた室屋さんは、2009年に「空のF1」とも言われる究極の三次元モーターレースポーツ「レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップ」に初参戦。世界で14人しか参戦できないこのレースに、アジア人が参戦するのは初めてでした。東日本大震災の時には、スカイパークの滑走路がひび割れ、陥没し飛ぶことができない日が続き

アニメ「機動戦士ガンダム」の主人公アムロ・レイに憧れ、三次元の大空を自由自在に飛び回りたいと夢見た室屋義秀さん。その夢を叶えるために、20歳の時に単身渡米し、パイロットのライセンスを取得。その後、1997年にはエアロパティックス(曲技飛行)の競技会に初参加し、本格的にパイロットとしての人生を歩み出しました。奈良県出身の室屋さんが「ふくしまスカイパーク(以下スカイパーク)」を活動拠点にしたのは1999年のこと。曲技飛行の練習ができる拠点を探していた時、緑の中に真っ直ぐに伸びる大笹生のスカイパーク(農道離着陸場)の滑走路を空から見たことがきっかけでした。「立ち寄った際に地元の皆さんがいい人だったこと、首都圏から福島に飛んでくると福島県上空から澄んだ空になり、緑もきれいで素晴らしい環境だったこと」この2つが決め手になったそうです。

(★に続く)



▲小学3～6年生が対象の「大空へ羽ばたけ！スカイスポーツ教室(福島県主催)」で子どもたちとハイタッチを交わす室屋さん

ます。「そこで定期的に子どもを対象とした航空教室を開催し、空の魅力伝えていきます」と意気込む室屋さん。

また、軽飛行機の研究開発を行う企業やパイロット養成を行う日本体育大学がスカイパークを拠点にすることを表明しており、施設の多面的活用が広がっています。室屋さんは「10年後に福島が航空立国・航空産業集積地となるきっかけ作りを手掛けていきます」と今後の抱負を話してくれました。

室屋さんは「福島県民栄誉賞」「福島市ふるさと栄誉賞」の受賞が決まっています。「大変光栄です。スカイパークを拠点に18年間練習を積み重ねた成果なので、県民・市民の皆さんの受賞だと考え、私が代表で受け取る気持ちでいます。福島市民として世界の空を翔ける室屋さんをこれからもみんな応援しましょう！」

特集 ふくしまの空から世界へ

練習拠点のふくしまスカイパークから世界へ飛び立ち、2017年の年間総合優勝を勝ち取ったエアレース・パイロットの室屋義秀さん。福島市ももりん大使*でもある室屋さんが国内外に本市の魅力を発信する中で、復興と風評の払しょくに寄与し、市民に明るい希望と活力を与えることに貢献したとして、本市は「福島市ふるさと栄誉賞」の授与を決定しています。

世界の空を翔ける福島市民、室屋さんの軌跡をご紹介します。

エアーレース・パイロット 福島市ももりん大使 **室屋 義秀さん**

1973年生まれ、奈良県出身。1999年よりふくしまスカイパークを拠点に活動。2009年に世界最速を誇る「レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップ」に初参戦し、国内外で活躍。NPOふくしま飛行協会理事。2015年に福島市ももりん大使に就任。「福島県民栄誉賞」、「福島市ふるさと栄誉賞」の受賞が決まっている。

日本時間10月16日に最終戦で逆転優勝し、年間総合優勝のトロフィーを手に喜ぶ室屋さん ©Taro Imahara TIPP



▲アメリカのインディアナポリスで開催された「レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップ2017」最終戦でのフライト

その一方、室屋さんはスカイスポーツの啓発・振興にも取り組んでいます。今後は、特に次世代を担う子どもたちの夢を育む活動に力を入れるとのこと。世界一になった経験子どもたちに伝え、今まで受けた支援を還元したいと考えています。スカイスポーツや航空文化の裾野を大きく広げるため、拠点施設をスカイパークへ平成30年秋の完成を目指して取り組んでいます。

★「日々を生きることのできる精いっぱいでした。しかし、あの大変な状況の中で市民の皆さんからエールをもらい、再び大空へ挑戦させてもらったことが今につながっています」と室屋さん。「操縦技術世界二を指して懸命に取り組み、2014年には自身初の大会3位、2016年に日本で行われた千葉大会では初優勝と、着実に結果を残してきました。そして今年、4大会を制し念願の年間総合優勝を果たしたのです。」